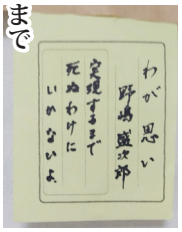
ごみかんよりお知らせ

新年も早やひと月がたとうとしています。一年で最も寒さの厳しい時期ですね。先週の１月 21 日に、ごみかんの会員さんの最高齢、なんと！来月 103 歳になられる武蔵野市の野嶋盛次郎さんのお宅を、井上編集長と訪問しました。

野嶋さんのことは、2022 年９月発行のごみっと・SUN vol.33（通算 153 号）の「会員さんってどんな人？ 特別編」に掲載していますが、この日もご自宅１階部分の「テンミリオンハウス　ふらっと・きたまち」には、地域の方が次々に来られて、ランチを楽しんでおられました。

実は、前回取材で訪問した折に、野嶋さんからは思いがけない大きな寄付をいただいたのです。ごみかんは会員さんの年会費と寄付だけで運営してきましたが、この時に頂戴した寄付のお陰で、以降３年半、ごみかんは財政的な心配がなくなり、活動を充実させることができました。その報告と改めて感謝の気持ちを直接お伝えするために伺ったのですが…

見てください。この元気なお顔！　そして、いま抱いている夢やそれをどうしたら実現できるかなど熱心に話され、その前向きな姿勢には驚くばかりで、大きなエネルギーをもらって帰ってきました。（E）



「実現するまで死ぬわけにいかないよ」

ベッドの脇にそう書いて飾られている自筆の書

三多摩議員ネットの研修会で講師をつとめました

運営委員　小野寺 勲

2026 年1月 21 日に、三多摩議員ネット（無所属議員のネットワーク）の研修会に呼ばれて、「多摩地域自治体におけるごみ対策の概況と今後の課題」というテーマで講演をしてきました。講演の要旨は以下のとおりです。

多摩地域の自治体は、全国の人口 10 万人以上 50 万人未満の自治体における 2023 年度の1人1日当たりごみ排出量ベスト 10 に８自治体、リサイクル率ベスト 10 に５自治体が入っており、多摩地域はごみ減量・資源化のトップランナーとなっています。

その背景として、多摩地域には、自治体間のごみ減量・資源化の競争を促す仕組みが存在し、さらなるごみ減量･資源化を目指す動機づけとなっています。多摩地域自治体のごみ減量･資源化の取り組みには、次のような特徴があります。全 30 自治体中、29 自治体が家庭ごみ有料化を実施し、高水準のごみ処理手数料と戸別収集による資源物分別の可視化が大きなごみ減量効果をもたらしています。

また、高水準のごみ処理手数料と戸別収集が資源物の分別を促している一方、焼却灰のエコセメント化や高い容器包装プラスチック分別収集実施率も資源化を押し上げています。

その反面、多摩地域全体では総ごみ量の約 75%を焼却しています。今後の課題としては、カーボンニュートラルと資源循環に貢献するため、脱焼却に向けて、ごみ減量と資源化を強力に推進する必要があります。

ごみ減量を推進するためには、ごみ減量を促進する啓発を一層強化する一方、ごみ減量を促進する強力な手段である、ごみ処理手数料の値上げを断行する必要があります。

また、資源化を推進するためには、資源物の分別を徹底することを基本とし、資源物の分別を強く訴えるメッセージを発信していくとともに、生ごみをはじめ、廃食用油、紙おむつなど資源化可能物への分別収集対象の拡大に積極的に取り組んでいく必要があります。なお、ごみ処理手数料の値上げは、分別収集対象拡大に必要な財源の確保にも役立てることができます。

表紙イラスト間違い探しの 答え

ごみ･環境ビジョン21

年会費＝ 個人会員 3,000 円　団体会員 6,000 円
賛助会員 10,000 円（一口）

郵便振替　口座名：ごみ・環境ビジョン 21
口座番号：00130-1-603521

◆ごみっと・ＳＵＮのお受け取り方法は
①ヤマト運輸の DM 便
②メール添付でのＰＤＦ配信　の二つがあります。
②をご希望の方はメールにてお申し込みください。

◆振替用紙にはご住所・お名前・お電話番号（FAX）をご記入ください。また、住所変更があった場合はお知らせください。

◆記事を転載する場合はご連絡ください。